

題材名 我が国の伝統音楽の特徴を感じ取り、そのよさや魅力を味わおう

第3学年 「B鑑賞」(1)鑑賞 及び [共通事項](1)

1 題材の目標

- (1) 我が国や郷土の伝統音楽及び諸外国の様々な音楽の特徴と、その特徴から生まれる音楽の多様性について理解する。(知識及び技能)
- (2) 旋律、速度、テクスチャを知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考えるとともに、音楽表現の共通性や固有性について考え、よさや美しさを味わって聴く。(思考力、判断力、表現力等)
- (3) 我が国の伝統音楽の特徴に関心を持ち、音楽活動を楽しみながら、主体的・協働的に鑑賞の学習活動に取り組む。(学びに向かう力、人間性等)



チェック

3つの資質・能力ごとに目標を設定する。

2 本題材で扱う学習指導要領の内容

重要!

第2学年及び第3学年 「B鑑賞」(1)鑑賞 ア(ウ),イ(ウ)

[共通事項](1) (本題材の学習において、生徒の思考・判断のよりどころになる主な音楽を形づくっている要素:「旋律」「速度」「テクスチャ」)





ポイント2

3 題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>知 我が国や郷土の伝統音楽及び諸外国の様々な音楽の特徴と、その特徴から生まれる音楽の多様性について理解している。</p> <p>注意 鑑賞の題材については、技能の評価規準は設定しない。</p>	<p>思 旋律、速度、テクスチャを知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考えるとともに、音楽表現の共通性や固有性について考え、よさや美しさを味わって聴いている。</p>	<p>態 我が国の伝統音楽の特徴に関心を持ち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。</p>

4 指導と評価の計画

時	◆ねらい ○学習内容 ・学習活動	知	思	態
		〈 〉 内は評価方法		
第1時	<p>◆雅楽の楽器の音色や旋律線など、雅楽の特徴とその特徴から生まれる音楽の多様性について理解する。 ポイント 1</p> <p>○雅楽の第一印象についてまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・西洋美術と日本美術など、視覚的に捉えられる美について、その特徴や、よさや美しさを言葉にしてみる。 ・西洋音楽と雅楽を聴き、西洋の音楽と日本の音楽の区別をどのように判断したか考える。 ・「なぜ1300年以上受け継がれてきたのか」という視点を持ち、雅楽を聴いてその第一印象をワークシート(1)にまとめる。また、雅楽の第一印象について意見交換する。 <p>○雅楽に使われる楽器の音色を知覚し、合奏の中での役割について考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・吹物について、その発音原理や西洋の楽器との比較など、様々な視点から楽器の音色を想像し、イラストを線で繋ぎながらその特徴についてまとめる。 ・吹物について、それぞれの音色を知覚した上で「越天楽」を見て、感じ取った各楽器の役割についてワークシート(2)にまとめ、意見交換する。 ポイント 2 <p>○箏の口唱歌を歌い、音色や旋律線の特徴を感じ取り、その特徴から生まれる音楽の多様性について理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・DVDの範唱に合わせ口唱歌を歌い、どのように歌えば箏の表現に近づけられるか考え、ワークシート(4)に記入する。 ・DVDの「塩梅」についての説明を聞き、旋律線に注意して口唱歌を歌う。 ポイント 3 ポイント 2 ・オーボエの「越天楽」や、箏とオーボエの「浜辺の歌」を聴き比べ、音色の共通点や相違点をワークシート(3)にまとめ、口唱歌を歌う。 ポイント 3 <p>○本時の振り返りをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ワークシート【毎時間の振り返り】を書く。 	知	知	知
第2時	<p>◆雅楽の速度、テクスチャを知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したことの関わりについて考える。</p> <p>○前時の学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・雅楽の吹物について、楽器の名前と音色、役割について確認する。 <p>○雅楽の演奏に合わせ口唱歌を歌い、速度やテクスチャの特徴について知覚する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・DVDの範唱に合わせ口唱歌を歌い、音色や旋律線の特徴を確認する。 ・拍の取り方の違う2種類の音源(越天楽の演奏)に合わせ口唱歌 	知	知	知

	<p>を歌い、違和感の正体について意見交換をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2種類の音源(越天楽の演奏)に合わせ口唱歌を歌いながら、拍の取り方によって生み出される雰囲気の違いについて考え、ワークシート(4)にまとめる。 <p>ポイント2</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「君が代」の2つの伴奏の違いを感じ取り、伴奏に合わせた歌い方を工夫し、雅楽の特徴が生み出す特質や雰囲気を感じ取る。 ・催馬楽「更衣」を聴き、発声や声の音色、筆筆で演奏される旋律と歌の旋律線の関わりについて考える。 <p>ポイント3</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オーケストラ伴奏と雅楽伴奏で歌うとき、それぞれの音楽の雰囲気に合わせて歌うとしたら、どのような工夫をすればよいか意見交換し、ワークシート(4)に記入する。 ○これまでに学んだ雅楽の特徴を踏まえ、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じ取りながら、よさや美しさを味わって聴く。 ・「越天楽」の鑑賞を行い、これまでの学習を踏まえ、雅楽のよさや魅力について自分の感じたことや考えたことをワークシート(5)にまとめる。 ○本時の振り返りをする。 ・ワークシート【毎時間の振り返り】を書く。 		 <p>思 〈観察〉 〈ワークシート〉</p>	
<p>第3時</p>	<p>◆我が国の伝統音楽の特徴に関心を持ち主体的・協働的に鑑賞の学習活動に取り組み、音楽表現の共通性や固有性について考え、よさや美しさを味わって聴く。</p> <p>○前時の学習を振り返る。 ポイント2</p> <ul style="list-style-type: none"> ・雅楽の楽器の音色や旋律線の特徴を確認し筆筆の口唱歌を歌い、雅楽特有の楽器の重なりや拍節について確認する。 ・筆筆の口唱歌を歌いながら、雅楽の固有性について具体的に意見交換する。 <p>○「謡」や「長唄」を聴き、それぞれの特徴について意見交換しまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2つの音楽を聴き、どちらが「謡」でどちらが「長唄」なのか考えの根拠を探りながら、それぞれの特徴についてワークシート(6)①に記入する。 ・能「羽衣」と歌舞伎「勧進帳」を鑑賞し、「謡」と「長唄」の特徴についてワークシート(6)②にまとめる。 <p>○「雅楽」「能」「歌舞伎」など成立年代の違う我が国の伝統音楽を聴き、その共通性や固有性について考え、それぞれのよさや美しさを味わって聴く。</p> <p>ポイント3</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「越天楽」「道成寺」「勧進帳」を比較鑑賞し、音楽の共通点と相違点をワークシート(7)にまとめる。 ・「能」と「歌舞伎」の魅力について、自分の言葉でワークシート(8)にまとめ発表する。 <p>○題材の学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・我が国の伝統音楽の魅力について、ワークシート(9)に記入する。また、記入した内容について、学級全体で意見交換する。 ・ワークシート【毎時間の振り返り】を書く。 		 <p>態 〈観察〉 〈ワークシート〉</p>	

5 指導と評価の一体化に向けて

ポイント 1 題材構想の段階で明確なねらいをもつ

本題材では、3年間のまとめとして我が国の伝統音楽のよさや魅力を味わうことを通して、多様な音楽に関心をもって今後も音楽に親しんでいくことができる生徒の育成を目指した。そのため、「B鑑賞」(1)ア(ウ)、イ(ウ)〔共通事項〕(1)アの指導事項を基に授業を構成した。生徒が自身の気付きや考えの変容をワークシートに記録できるようにし、生徒自身が学びを振り返り深めるための記述と、評価に生かす記述を明確にして指導につなげた。

ポイント 2 音楽を形づくっている要素を適切に選択する

本題材では、生徒の思考・判断のよりどころとなる主な音楽を形づくっている要素について、「旋律」「速度」「テクスチャ」の3つの要素とした。第1時には「音色」についても取り上げているが、中学3年生の発達段階として「音色」よりも他の3つの要素の方が、学びを深めるためにより重要度の高い要素と判断し、指導案にもこの3つの要素を明記している。

ポイント 3 資質・能力を育成するために学習活動を工夫する

本題材は鑑賞領域の授業ではあるが、口唱歌を歌うなどの表現活動を通し、旋律や速度の変化などについて知覚したり、感受したりできるようにした。口唱歌を歌うことは評価の対象とはならないが、授業に用いることによって生徒が実感を伴って、特徴を知覚・感受することができた。また、常に比較できる対象を用意し、多様な音楽の共通性や固有性を考えることによって、我が国の伝統音楽についての深い理解につながったり、よさや美しさを味わったりできるように意識した。

6 まとめ

授業を構成する上で、身に付けさせたい資質や能力など、具体的なねらいをもち、題材の目標やそれぞれの時間の目標を明確にすることで、学習内容が焦点化され評価の視点も明確に捉えることができた。また、生徒の思考・判断のよりどころとなる主な音楽を形づくっている要素について、本題材の中に多くの要素が関わるが、中学3年生という発達段階も考慮し、精選する中で要素を思考・判断のよりどころとして学びを深めることができた。身近に感じることの難しい我が国の伝統的な音楽を、より親しみをもって学ぶために、口唱歌を歌うなど、表現活動を交えながら鑑賞領域の授業を展開した。表現方法の異なる同じ曲を聴取したり、口唱歌で表現したりすることによって、生徒自身が自ら特徴に気が付くことができたり、実感を伴って学んだり、深い学びへとつなげることができた。しかし、目標にあるよう「魅力やよさを味わう」と考えたとき、我が国の伝統的な音楽を感受し味わって聴いているというより、魅力について考え、こういうところが魅力だろうと想像して聴いている生徒が多く、一つの題材の数時間の授業で、「魅力やよさを味わう」ことの難しさを痛感した。

今後は、3年間を通し様々な題材を結び付け、多様な音楽の共通性や固有性を考えるなど、教材を相互に作用させることによって、音楽をより深く味わえる生徒の育成を目指していきたい。

(5)「音楽」の音楽的な特徴を踏まえ、そのよさや魅力についてまとめよう。

物の伸び縮みがあることで機械的な音楽ではなく、人間
味のある音楽になっていると思う。西洋の音楽は完璧という
かんじで「すごい」という感想を持つけど、日本の音楽はズレ
などが優雅な感じやあざむきみたいなものを感じさせる。
楽譜の合奏が力強く優雅な雰囲気を出
ていると思う。

